平成31年度(2019年度) 県立日立北高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。 (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を確立する。 (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。 (4) 生徒一人ひとりを大切にすることを実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。		
昨年度成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
(学習指導) [成果]平成31年度入試においては、国公立大学現役合格者数が69名であり、入学時の学力を向上させ送り出すことができた。また、進路先は全国幅広く、各自の進路希望と合致した学問系統の大学に進学している。これは、生徒の進路意識の高さに加えて、3年間を見通した継続的・系統的な学習指導やキャリア支援等の成果といえる。主体的な学びに繋げるため、GTECの英語4技能受験、1年生の探究学習プログラムをスタートできた。 [課題]生徒一人一人の進路希望実現を後押しできるよう、教員間の実践知の継承・共有を見える化し、改善を図っていく。	(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進	1 出張・年休時の授業振替を100%実施し、授業時間の確保に努める。 2 授業方法に関する研究や『学習シラバス』の活用を通して、「わかる授業」の展開に努める。 3 全生徒参加による土曜日課外を実施し、学力向上を図る。 4 少人数授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入する。 5 国公立大学現役合格者数80名以上を目指して指導する。 6 効果的な教育課程を編成する。	A
(豊かな心の育成) [成果]生徒は誠実で思いやりがあり、協調性に富み明るい学校生活を送っている。システム手帳の活用が、自己管理能力育成の一助となっている。 [課題]主体的に課題を見つけ、分析・判断し、自己を表現できる生徒の育成に努めていく。	(2) 入りたい大学への積極的な挑戦	7 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と早期における目標設定を推進する。 8 職業観育成セミナーや学問観育成セミナー、進路研究見学会を実施し、キャリアプラン作成につなげる。 9 日北セミナーや大学模擬授業を通して大学における研究内容や高校・大学のつながりを理解させる。 10 進路情報の収集と的確な提供に努め、難関大学への合格者を増加させる。 11 学習実態調査や全国模擬試験等を活用し、学習意欲の向上に努める。 12 課外指導においては、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。	A
(学習活動と部活動・特別活動の両立) [成果]部活動加入率が約8割と、部活動や生徒会活動への積極的な参加が顕著となっている。平成31年度国公立大学現役合格者に占める部活動加入者の割合は65%である。 [課題]生徒一人ひとりの自己肯定感を喚起し、頑健な体と、課題に立ち向かい「継続は力なり」を実践する強い精神力の育成に努めていく。	(3) 「豊かな心」の育成	13 自律精神の育成と自己抑制力の育成に努め、日立北高校生としての誇りを持たせる。 14 環境教育やボランティア活動を推進し、他者への思いやりや温かい心を育む。 15 礼儀正しい態度や端正な容姿の指導に努め、「さわやかマナーアップ事業」に協力する。 16 相手の立場になって考え、行動できる人間の育成に努める。 17 国際理解教育を推進し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。 18 特別支援教育の充実に努める。	A
(今後のビジョン) 入学生一人ひとりの力を見極め、一層丁寧な学習指導を実践していき、バランスのとれた進学校として地域からの信頼を得ていく。	(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立	19 部活動のより一層の活性化を図る。 20 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)の活性化を図る。 21 JOYホールなど、生徒が自学自習できる環境の整備に努める。 22 部活動参加者等に配慮した学習環境の整備に努力する。	A

	(5) 健康と安全への配慮	<p>23 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。</p> <p>24 生徒相談の充実に努め、生命の大切さを理解させる。</p> <p>25 登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。</p> <p>26 校舎内外の巡視や門扉の閉鎖を行い、不審者の侵入を防止する。</p> <p>27 近隣の小・中学校や高等学校と緊密に情報交換を行い、事故の未然防止に努力する。</p>	A
	(6) 情報公開の積極化	<p>28 保護者や地域住民に対する授業公開を積極的に推進する。</p> <p>29 生徒・保護者・地域住民等による学校評価・授業評価を実施し、その結果を速やかに公開する。</p> <p>30 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、情報公開に努める。</p> <p>31 学校説明会の充実に努めるとともに、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施する。</p> <p>32 ホームページやスクールガイド等を活用して、積極的な情報公開を行う。特に、ホームページは内容の新鮮さに配慮し、週1回以上の更新を目指す。</p> <p>33 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。</p>	A
	(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開	<p>34 県内で進学校としての存在感を示す。</p> <p>35 本校の将来像に合致した教育活動を具体的に企画し、展開する。</p>	B

評価項目		具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導		理解を深める指導	学習の目的・内容を明らかにし、わかる授業の展開に努める。	1,2	A	A	・互見授業の充実化を図り、外部の研修機会を活用し、指導力向上を目指していく。
		積極的な学習態度の育成	少人数授業や課題学習をととして、自ら課題を見付け解決する能力を養う。	3,4	B		
教科指導	国語	基礎学力及び進学に対応して学力の向上を図る。	シラバスの進度に合わせて、基礎学力の向上を図る。(1年)	1,2	A	A	・基礎学力の定着と進路希望に対応できる学力を向上させる。 ・生徒の主体的学びをサポートするような授業を展開する。
			シラバスの進度に合わせて、古典の学力の向上を図る。(2年)	1,2	A		
			演習を通して、大学進学のための学力をつける。(3年)	3,4	A		
	地歴	基礎学力の向上を図る。	シラバス等に基づいた授業を展開し、系統的な指導による知識の理解をすすめる。	2, 5	A	A	・生徒が興味・関心を高められるよう視聴覚教材を利用するなど授業展開を工夫する。 ・歴史資料の活用など、生徒の思考力・判断力、そして自分の考えを表現する力を養えるよう工夫する。
		家庭学習の定着に努める。	ドリル等を実施し、授業内容の定着を図る。	4, 5	A		
	公民	大学進学に対応した学力の向上	小論文指導を通して、思考・判断力の醸成に努める。	4, 5	A	A	・時事的な話題の提供などを通して、生徒の思考力・判断力を養えるよう工夫する。
		公民的思考力を養う。	時事問題に関心を持たせ、自己の在り方・生き方を考えさせる。	2, 17	A		
	数学	基礎学力の向上を図る。	演習・授業でTT授業や少人数授業を積極的に活用し、生徒が学習しやすい環境をつくる。	4	B	A	・基礎基本の定着のための課外や補修等の支援ができていない。生徒たちの力をさらに伸ばすためには現状を的確に把握し、指導を工夫していく。 ・家庭学習の習慣化のための工夫を、さらに深めていく。 ・入試を見据えた授業進度や考査の難易度の設定など、教科会などを通して共通理解を図れている。教科全体で共通理解を持って、異動などでメンバーが替わっても生徒たちのためによりよい指導ができるようなシステムを構築を継続して考えていく。
			ドリルや小テストを用いて生徒の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習や課題等の支援を行う。	2	A		
		家庭学習の定着に努める	副教材を用いて計画的に授業の復習をする。習慣が身に付くよう、定期的にノートを点検する。	2	A		
		大学進学に対応した学力の向上	予習、授業、復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかり行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。	1, 2	A		
			模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	9, 11	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	小テストやドリルなどを実践し、一人ひとりの学力を把握し学力向上を図る。	1, 2	B	B	・生徒の基礎学力の向上を図るとともに、入試を分析し、新しい時代に合った教え方を模索していく必要がある。 ・授業の進行を調節し、小テストやドリルなど演習の時間を確保することで、学力の定着を図る。 ・実験・観察を通して、教科内容と日常での体験などを手がかかりに見直しを立て、考察を深める機会を増やす。
		科学的思考力・判断力を養う。	教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める	2	A		
			実験・観察を通し、科学的に判断する力を育成する。	2	B		
	保健体育	授業時間の確保	集合時間を厳守させ、チャイムと同時に授業が始められるようにする。	1,16	A	A	・体育は、授業内容の見直し等により、生徒の体力向上を図ることができた。結果、「体力優秀賞」6年連続受賞を果たせた。保健は、生徒の発表を全てのクラスで授業導入として実施した。授業アンケートの結果を見ると、以前より健康や保健の授業に関心を持つ生徒が増えている。今後は、生徒が自らの体力の現状を把握し、課題克服と心身の健全な発達を目指すために、積極的に体育および運動に親しむ態度や、健康の維持増進を図るための実践力を身に付けるよう指導していく。
		頑健な体力と強靱な精神の涵養につとめる。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	2,13	A		
			安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	2,13	A		
健康の保持増進に努める		感染症の予防や心身の健康について理解を深める。	28	B			
芸術	基礎基本の重視	個々の表現に応じ、基礎・基本に重点を置き、技術・技能を修得させる。	2,4	A	A	・読譜力及び記譜力の向上を目指す。 ・鑑賞マナーの向上と鑑賞機器の充実を目指す。 ・楽器の取り扱いについて一層の注意を喚起する。	
	鑑賞能力の育成	インターネットやAV機器を活用し、より多くの芸術作品に触れさせ、鑑賞能力を伸ばす。	2	B			
	評価法の工夫	自己評価や、生徒間の相互評価により、自らの表現に対し客観的な視点を持たせる。	1	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	外国語(英語)	基礎学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人一人の到達度を把握し、学力の向上を図る。	2	A	A ・大学入学共通テストや英語外部資格検定を見据え、4技能をバランス良く伸ばすための授業改善を行う。 ・それぞれが研修を積みながら、学年・教員間の連携を密にし、共有したり次の学年に引き継いでいけるものは積極的に活用していく。 ・外部検定や教材などは単純に前年度を踏襲するのではなく、しっかり教科として振り返りを行い、精選していく。
			定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	2,11	B	
		家庭学習の定着に努める。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	2,4	A	
			声かけを丁寧に行うことにより、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	2,9	A	
		受験に対応できる確かな学力を身につけさせる。	教材の精選を図り、密度の濃い授業を展開する。	1,2	B	
			課外授業を通じて、一人一人の進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	3,12	A	
	家庭	授業時間の確保	授業開始時刻と終了時刻を厳守させる。	1	A	A ・生徒の生活体験の実態を把握し、実習内容を精選していく。 ・思考力・表現力の向上を図るため、ワークシート等で授業での気づきをまとめさせる機会を増やす。 ・問題解決型の学習機会を増やし、レポート等にまとめる力を育成する。
		将来を見据えた自立への意識の高揚	今までの自分を見つめる活動と、様々な人の生き方や問題点を探る活動をととして、将来を見つめ、自立への意識を高める。自分の生活をデザインしようとする意識の高揚を図る。	2,13	A	
		自立した生活に必要な知識・態度・技術を実践的に高め、定着をはかる。	実習・体験学習を多く取り入れ、実践的な力を育成し、実技テストの実施により、技術の習得を図る。	4,13,16	B	
			グループ活動をととして、協働や協調性を育成する。	4,14,16	A	
			家庭での課題等を通して実践力の定着をはかる。生活課題を見つけ解決していく実践的な態度を育成する。	2,4,16	A	
			課題を解決するために思考し、判断した内容をレポート等でまとめる力を育成する。	2,4,13,16	B	
	情報	情報社会に参画する態度を育成する。	情報通信ネットワークとコミュニケーションについてその仕組みの理解とマナーについて理解させる。(コミュニケーションにおける情報ネットワークの活用、ネチケット、電子メール、SNS)	16	A	A ・ICTを活用して授業を展開することで、分かる授業を実施する。 ・最新の情報技術や問題となっている情報モラルなど、情報社会の内容を最新化して生徒へ情報社会について伝える。 ・学年と連携して進路学習・探究学習をサポートする。
			情報の収集・発信の方法を実習をととして具体的に理解させる。(情報検索、デジタルプレゼンテーション)	2	A	
			各種メディアから進路に関する情報を収集・整理し、自己の在り方生き方について主体的に考えさせる。	8	B	
			情報化の推進と社会への影響及びその功罪について考えさせる。	2	A	
	教務	授業時間の確保	授業交換システムを円滑に運営して授業時間の確保をはかるとともに、同時展開授業の授業確保策の検討を行う。	1	A	A ・本校の生徒に合う新教育課程の作成 ・互見授業の機会を設定し授業力向上に資する ・分掌内の仕事の分担及び配分の適正化 ・授業時間の確保と授業変更の仕方の周知確認 ・教育目標の具体化と目的意識の共有 ・国際理解教育の模索 ・総合的な探究の時間の在り方の研究 ・PRの仕方の在り方についての検討
			調整日を設けるなど工夫して授業実施時間に不均衡が生じない年間計画の策定を行う。	1	A	
授業力向上の推進		積極的な互見授業を通して、生徒の学力向上に不可欠な授業力の向上を図る。	2	A		
学力向上の推進		達成目標に準拠した学習内容・方法について教科シラバスの再検討を行い、「分かる授業」を実施する。	2	A		
		生徒の学力を向上させるため教育効果の高い定期考査・小テスト・ドリルの在り方・内容を研究する。	2	A		
自ら課題を見つけ自ら学ぶ力の育成		すべての教科で主体的に学ぶ学習場面を増やすとともに、3年間を見通した「総合的な学習の時間」の指導を通して自ら学ぶ意欲を向上させ、学ぶ喜びを実感させる。 生命の尊重・人権教育、国際理解教育、情報教育・環境教育・科学教育などの課題をテーマとした学習機会を充実させる。	4,6	A		
		16,17	A			
教育課程編成の研究		新学習指導要領に対応し、生徒にきめ細かく対応できる教育課程への移行を行う。	6	A		
	新学習指導要領による大学入試制度の変更を教育課程に反映できる体制づくりを進める。	6	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	積極的な情報公開	生徒・保護者・地域住民等に学校評価の実施と公開を行うとともに、本校の各種教育活動の公開を積極的に行う。	28,29	A	A
	本校の将来像の検討	スクールガイド・ポスター等の有効活用、学校説明会実施に加え、中学校への広報・訪問活動を推進して信頼関係を深める。	31,32	A	
		本校・地域の現状分析に基づいた本校の将来像を検討し、これに沿った教育活動を推進する。	35	A	
	校内諸規程集の定期的見直し	校内諸規程集の見直しを定期的に行い、改訂を着実に進行。	6,23	A	
	年間行事計画の検討	教員・生徒双方が落ち着いてかつ高い目的意識を持って学校生活に取り組めるよう、年間行事計画を検討する。	6,23	A	
	教職員研修の充実	人権教育、教育相談や小論文指導に関する教職員研修会を実施するとともに、授業互見による教科指導の研修を積極的に行う。	2,13 24	A	
		先進校訪問や教員の研究成果を職員間で共有し、広く公開する。	2	B	
	データ管理の徹底	職員室ネットワーク上のデータベースの保持管理。	2	A	
		デジタル個人情報の一括管理を徹底し、個人情報の漏洩を予防する。	2, 10 32	B	
		成績データ管理の一元化、校務支援システムの管理	2, 35	A	
	コンピュータ・消耗品の管理	各教室、コンピュータ教室、職員室等のコンピュータの維持管理に努める。	7	B	
		CD-R, DVD-R, プリンタートナー, プリンターインク等消耗品を常備し、使用便宜を図る。	2	A	
	ネットワークの整備	ネットワークサーバーの管理を徹底し、セキュリティシステムの整備と情報モラルの向上を図る。	13, 24	A	
	正確な成績処理	定期考査, 通知票, 調査書, 生徒指導要録等のデータ処理システムの管理と助言を行う。	10	A	
		データ処理に関する職員研修会を実施し、個人情報の管理を徹底する。	13	A	
視聴覚機器の活用	視聴覚機器の整備を行う。	13	A		
	学校行事の映像化を図り、記録・保存に努める。	13	B		
	ホームページの定期的な更新を行い、本校情報の積極的な公開を進める。	32	A		
生徒指導	学年の協体制作り	生徒に関する情報交換を密にする。	13	B	B
	生徒の現状把握	生徒指導に関する情報、資料の収集と提供に努める。	27	B	
		容儀指導を徹底し、端正で高校生らしい服装・マナーの維持を図る。	15	B	
		登校指導の継続的実施によって、あいさつや身だしなみが整った生徒の育成に努める。	15	B	
		教育相談の充実を図り、生徒の理解に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。	24	A	
	事故の未然防止	登校指導・自転車乗車指導や被害調査を実施し、事故の未然防止に努める。	25	B	
		さわやかマナーアップ運動の積極的な実践を推進する。	15	A	
		貴重品の管理を徹底し、盗難の防止に努める。	16	B	
生徒の意識の高揚	日立北高生としての自覚を持たせ、学校への「学び舎」としての意識を涵養する。	14	B		
	「道徳」や「道徳プラス」において「心の教育」を実施し、生徒の規範意識を涵養する。	24	B		

・教育相談の充実
・他分掌、担任、学年との連携強化を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導	自己の在り方生き方指導	生徒の主体的な進路選択の支援(進路講演会の実施, HRの活用, オープンキャンパスレポートの作成を推進する。)	8	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力を向上させるための工夫。 ・生徒の適切な進路選択のために, 生徒・教員双方へ進路情報を適切に提供する。 ・進路行事をより一層させるために, 目的の共有と効果の検証をきちんと行う。 ・推薦入試指導のノウハウの継承のために, 研修の機会を設ける。
		職業観・勤労観の育成, 社会生活における役割や自己責任の自覚の育成(インターンシップ・ボランティア活動等の実施。職業観育成セミナーの実施。)	8	A	
		社会に目を向ける習慣の確立・明確な進路意識の啓発(小論文指導・日北セミナーの実施。自己理解を深めさせる進路観育成セミナーの実施。)	8	A	
	進学指導	進路実現意欲の喚起・啓発, 自立的・自律的な学習習慣の確立(学年・クラス・教科の連携強化, 模試データや生徒の進路希望の情報共有化等。大学模擬授業・日北セミナーの活用。進路ファイルの活用。)	5,9 10,11	B	
		実力養成のための学習機会の確保(平日課外・土曜登校日・長期休業日課外・国公立二次課外・朝ドリル・小論文指導・面接指導・芸術体育等実技指導・模擬試験等の実施。早朝自習室開放・休日自習室開放の推進。)	3,5 11,12 21,22	A	
		学習環境の整備(各入試問題・受験報告書等の提供に努める。)	21 22	A	
		進路情報の提供(進路情報誌や進路ニュースなどを活用し, 適切な情報をより早く正確に提供する。)	10	A	
	就職指導	情報の提供・職場開拓(生徒一人一人に応じた面談の実施を徹底する。)	7	A	
		実力養成のための学習機会の確保(就職模擬試験・公務員模擬試験・面接指導等の実施。)	11	A	
	広報活動	校内向け広報活動(進路情報, 進路ファイル, 進路ニュース, 掲示資料等)の充実をはかる。	33	B	
校外広報活動(Webページの更新, 中学生向け広報紙, 進路実績懸垂幕等)の充実をはかる。		32	B		
保健厚生	生徒の心身の健康増進	健康の推進や環境整備を通して, 生徒の健康の維持・増進を図る。	23	A	<ul style="list-style-type: none"> ・協体制の維持 ・他分掌との連携 ・連絡の工夫 ・特別支援教育の強化
		定期健康診断が円滑かつ効果的にいえるよう体制を強化する。	23	A	
		感染症予防体制の強化を図る。	23	A	
		養護教諭不在時の応急処理体制の強化を図る。	23	A	
		感染症, 栄養, 運動, 休養, 保健室等の利用状況について「保健室だより」を月1回発行する。	33	A	
		保健厚生部広報紙「茨」を年1回発行する。	33	A	
	安全で快適な教育環境の維持に努める。	ゴミ処理の分別が円滑に行えるよう, 生徒への指導を徹底する。	14,16	B	
		短時間で効果的な清掃が行えるよう清掃方法を指導する。	14,16	A	
		防災訓練を実施し, 非常時の安全確保に備える。	23	A	
		エアコンの使用について, 使用温度等の規則の徹底を図る。	23	A	
		大掃除の実施時期と係分担を定め, 効率的・効果的に環境の美化に努める。	13	A	
		奨学生募集のインターネット化に対応できるよう, 厚生係の体制の強化を図る。	32	A	
		専門家による性教育を実施する。	23,24	A	
		特別支援教育の充実を図る。	18	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動	ホームルーム活動の充実を図る。	年間計画に従い、計画的なロングホームルームの運営を行う。	20	A	<ul style="list-style-type: none"> 各係業務内容のマニュアルの整理と、次年度への確実な引継ぎを行う。 関連事業への早期準備と、生徒が主体となって計画実行できるための指導方法を確立する。 ロングホームルームの計画的な実施と、新テストに対応可能な弾力的運用の研究を進める。
		ホームルーム活動指導資料集の活用を進め豊かな心の育成に努める。	16	B	
	部活動の活性化を目指す。	学業との両立を基本に、より活発な部活動を目指す。	19,22	A	
		文化部への積極的な参加を促し、バランスのとれた部活動編成に努める。	19	A	
	開かれた生徒会活動を目指して指導する。	施設・設備の整理・整頓に努め、自ら活動環境を整えようとする意識を高める。	14	A	
	「生徒会ステーション」を発行し、広報に努める。	20	A		
	生徒会活動を手伝うボランティアを一般生徒から広く募り、一緒に生徒会活動を行っていく。				
図書	図書館利用の促進	図書部関連行事の徹底を図る。	16	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書便り(フロムライブラリー)の改善。 図書館利用者の増員を図る。
		書籍、資料等の利用を促進させる。	13	A	
		図書委員会活動を活性化させる。	13	A	
		書籍・資料の充実に努める。	13	A	
渉外	学校に対する保護者の意識を高め、保護者との連携を図る。	学校の教育活動広報のため、PTA広報紙を発行する。	30	A	<ul style="list-style-type: none"> PTA並びに同窓会活動がより円滑に運営できるように支援する。
		社会人(卒業生)による職業講話を実施し、生徒の進路選択に資する。	8	A	
		長期休業中に保護者と協同して巡視を行う。	27	A	
	同窓会との連絡を密にし、同窓会活動に協力する。	同窓会役員と定期的に連絡を取り、情報交換に努める。	30	A	
		同窓会幹事に学校の動向を伝える。	30	A	
1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶・身だしなみ・時間厳守・言葉使い・清掃を通し、基本的な生活習慣を確立する。	13	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSや携帯電話の使い方への対応 自己管理能力の育成 学習習慣の確立 進路意識の向上 進路情報の発信 学年団での情報の共有 見通しを持った学年行事の実施
		周囲に対する思いやりの気持ちを持たせ、集団生活に適応できる人材を育成する。	16	B	
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を第一に予習・復習を励行し、基礎・基本を身につけさせる。	2	B	
		ドリル・課外に積極的・継続的に取り組ませる。	8,11	B	
	進路指導の充実	早期から進路意識を持たせ、進路研究を進めさせる。	8,11	B	
		個別面談・ホームルーム・集会・講演会等を活用し、自己の将来像を持たせる。	7,8,9	B	
	組織力の向上	いじめや事故の未然防止のため、面談等で得た生徒情報を教員間で共有する。	24,27	A	
学年団で教務の分担やノウハウ・データの共有を積極的に行う。		23	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
2学年	基本的生活習慣の確立	端正な服装, 容儀の保持や挨拶などの指導。時間厳守の行動の励行。	13,15	A	A <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望の実現 進路実現に向けた意識の向上 進路に向かって努力できる雰囲気作り 共通テストに向けた対応と情報の提供 個人面談による生徒把握と的確なアドバイス 授業, 行事への主体的な取り組み 責任ある行動を取れる生徒の育成 基本的生活習慣の徹底
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	学校行事, 部活, 課外等に積極的に参加させ, 強い体力, 精神力を養うとともに自ら考え責任ある行動がとれるようにする。	20,22	A	
	学習習慣の改善と進路探求活動の充実	授業を第一とし, 予習・復習を含めた家庭学習とドリル, 課外等に継続的に取り組ませる。	7,8	B	
個人面談, HR, 講演会, 模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。		11,12	A		
3学年	基本的生活習慣の確立	社会人としてあるべき姿をふまえて, 挨拶やマナーなどTPOに応じた言動を励行させる。	15,16	A	A <ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎学力定着に向けた, PDCAサイクルの構築 新しい大学入試を見据えた, 思考力・判断力・表現力育成を目指す授業の充実 成績上位者の伸長を目指す, 指導方法の研究 推薦入試対策に向けた, 教員の指導力向上 学年行事の目的・実施方法の共有化 担任負担軽減のための, 業務分担の見直し
		学年団として, さまざまな指導の機会を活用して, 生徒に自律的な生活ができるよう指導する。	13	A	
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	担任・副担任と生徒との信頼関係をもとに, 生徒の良い面をさらに伸ばすよう適切にアドバイスをする。	7	A	
		学校行事, 部活, 清掃, 課外等に参加させ, 心身を鍛え, 自ら考え責任ある行動がとれるようにする。	13,14	A	
	進路希望実現への支援	授業を第一とし, 予習・復習を含めた家庭学習とドリル, 課外等に継続的に取り組ませる。	11,12	B	
個人面談, HR, 講演会, 模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。		7,8,9 10,11	A		

* 評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない